

2008年11月1日インカレロング併設トレイルO大会(愛知県新城市)



すっかり定着した感のあるインカレトレイル。個人は中尾が、そして対抗戦は東北大が制した。またTemp0のエキシビジョンも行われ、さらに興味深いものとなった。

学生 91 名、一般 55 名、合計 146 名の大賑わい

秋の指定大会のトップを切って開催されたインカレ併設トレイルO大会では、8校56名の学生がトレイルO学生チャンピオンの座を競った。



短めだがスキルを求めるコースと2つのTC

今大会の会場はフットOのモデルイベントの行われた「つくで手作り村」の周辺での1km弱のコースであった。12コントロールを1時間の制限時間内でこなすという時間的にはやや厳しいと思われた設定だったが、課題はDP(ディジョン・ポイント)付近でしっかりと地図を読めば解答できるものがほとんどで動き回る必要はとくになく、おかげでいつも時間が足りなくなると筆者も余裕を持って解答できた。



タイムコントロール(TC)は、コースの最後に2つ設けられた。最初のTCは特徴に乏しい斜面にフラッグが置かれていたが、藪の植生、道の曲が

りとの関係から導ける物であった。

2つ目のTCは「こぶの東側」で方角から比較的容易に右2つに絞れる。しかし、その後の等高線の読み、他のフラッグとの位置関係からの距離の読み取りで差が出る課題であった。

満点はただ一人

結果は杏友会の中尾さんがただ一人の満点で優勝。学生トップは東大の菅原君、トレイルOでも常に上位のフットOチャンプの日下君は、学生5位でフットOとの2冠はならなかった。しかし、団体戦では東北大が前年優勝の東大を抑えて優勝した。

Aクラス

① 中尾吉男	杏友会	14点	37.5秒
② 田代雅之		13点	66秒
③ 菅原大樹	東大	13点	66.5秒
④ 大橋悠輔	東北大	12点	16秒
⑤ 八重樫集	東北大	12点	19秒
⑥ 伴毅	京都大	12点	48秒
⑦ 栗城吾央	岩手大	12点	56秒
⑧ 鈴木規弘	多摩OL	12点	92秒
⑨ 藤生考志	東京OLC	12点	106.5秒
⑩ 角岡明	つるまい	12点	113.5秒

団体戦

① 東北大学	36点	152秒
(大橋、八重樫、日下)		
② 東京大学	35点	217秒
(菅原、太田、大木)		
③ 京都大学	31点	245秒
(伴、松矢、宇都宮)		

どの問題も正解にたどりつくには、細かい地図読み、正確な距離感が必要とされた。この二つは、トレイルOに本格的に取り組むには大変重要なスキルだと思う。正解をある程度絞り込めるのだが最後の2つぐらいでどちらを選ぶか大いに迷う問題が多かった。難易度も含めよい課題であったと思う。

TempOのエキシビジョンも開催

2日目のロングディスタンス本番の日には、Temp0のエキシビジョンが行われた。Temp0とは、1か所のTCで複数の課題に取り組むものだ。

今回は3か所のTCで4問ずつ計12問の課題が出された。順位はふつうのTCと同じで正解数の多い順で同点の場合は回答に要した時間の合計の少ないほうが上位となる。間違えると60秒加算される点も同じだ。ただし、普通のTCと違い、「正解なし」もある。

これは課題を重ねるにしたがって選択肢が絞られて、やさしくなることを防ぐ手段だと思う。

先日、日本で初めて行われた神奈川でのTemp0大会では、いきなり正解なしが登場して面食らったが、今回は難易度も適切であったと思う。それでも限られた時間で次々に回答を求められると判断は難しくなる。

このTemp0は、少ないコントロールで何回もできるので練習会で行うにはうってつけだと思う。また、地図の順番をシャッフルしてランダムに行えば、一人で練習することにも利用できそうだった。

Temp0は、2人同時に提示して回答の速さを競う方式もあるという。将来はこの対戦方式で公開の形で行えば、見るほうも楽しめる。とくに観客の多いインカレで表彰式の前に決勝戦を行えば大変盛り上がるだろうと想像してしまった。(松橋徳敏)



TC1 A-E 正解:C

TC2 A-E 正解:E

TC3 A-E 正解:A

TC4 A-E 正解:Z

TempOの1番、4つの課題が連続して出される。ここでは4問目に該当フラッグがなく正解なしとなっていた。